

古道を訪ねて ③7



巡礼道 (勝尾寺・総持寺) ⑨

国道を渡り、右折して勝尾寺川の
ほうへ約1000m戻ると、歩道の脇
に「右いばらき 左そうち寺 道」
と刻まれた文政4(1801)年建
立の道標があります。

ここで左に入る細い道があります
がこれが巡礼道です。約80mほど進
んで行くと民家の脇に、茨木市内で
最も古い寛政9年(1797)の年
号のある道標があります。正面に
「右大坂 左丹波」裏面に「すぐか
ちをてら」とそれぞれの方向が刻ま
れています。左面は風化して肉眼で
は読みとることが難しいですが、
「いしにとひ 右の道には ■やま
という」と刻まれています。道標の
頂端部に「亀」の文字がありますが、
これを■の部分に入れて「亀やま」
と読むと考えられます。

総持寺山門▶



▶総持寺本堂



昔の面影を残す西河原の集落の中
を進んで行くと、左手に石灯籠があ
り、正面に「いば水 壹丁半」と記
されています。いば水とは「磯良神
社」のことで、境内の湧き水で疣を
洗うと取れると信仰されています。

この道標のすぐ先で巡礼道は「府
道茨木亀岡線」の下をくぐる地下道
になります。地下道を抜けて、安威
川に架かる橋を渡り「西河原公園」
の間を通ります。公園を過ぎると、
右に分かれる道がありますが、ここ
に正面に「左そうじ寺」左面に「右
かちを寺」と彫り深い文字が刻まれ
た道標があります。年号はありません
が書体から江戸時代のものと考え
られます。



▲寛政9年の道標

ここから目的の「総持寺」
まで約500m、巡礼道は住
宅街の間を抜けて進み、途中
東海道本線で遮断されます。
100mほど迂回して高架の
下を抜けて再び旧道に戻ると
すぐ目の前に総持寺の裏門に
たどり着きます。

なお、「古道を訪ねて」の
コーナーは、今回で終了しま
す。

